

2016年度 事業報告

特定非営利活動法人

町田市学童保育クラブの会

I. 法 人 事 業

1. 組織運営

1) 理事会

	日 程	内 容
第 54 回	5月28日	2015 年度 事業報告・決算、定期総会招集
第 55 回	12月18日	2016 年度 第一次補正予算、緊急時対応マニュアル改定
第 56 回	3月25日	2016 年度 第二次補正予算 2017 年度 事業計画・予算、就業規則等改定

2) 評議員会

評議員は定期総会で選出し、理事会の諮問機関の役割を担うものとして、年2回開催した。

	日 程	内 容
第 13 回	5月28日	2015 年度 事業報告・決算
第 14 回	3月25日	2017 年度 事業計画・予算

3) 事務局

- (1) 事務局は理事会の日常業務の執行機関であり、組織運営に関する業務を行う。
- ① 4月～6月：事業報告書および決算書を作成し、関係諸機関へ提出
 - ② 6月：定期総会を開催。町田市の管理運営状況評価（モニタリング）を作成。
 - ③ 8月：全クラブ利用者アンケートの集計作業を行う。
 - ④ 理事会および評議員会の議案を作成し、運営を行う。
 - ⑤ 特別保育の利用料徴収業務を行う。
 - ⑥ 関係諸機関・団体との連携を図る。
- (2) 事務局会議を毎月開催し、法人組織の機関会議として様々な課題の検討を行う。

	内 容
4月	くれよんキッズ春企画報告、職員配置、職員の表彰について
5月	放課後児童支援員の認定資格研修、夏季アルバイト、会費について
6月	施設長会議報告、利用者アンケート、大規模問題、まちカフェ！参加
7月	利用者アンケート、夏バイト、2015 年度モニタリング、各委員会・PJ 報告
8月	利用者アンケート、メンタルヘルス、2015 年度モニタリング評価結果
9月	特別保育費用徴収、利用者アンケート結果、委員会資料検討
10月	ちがさき学童保育の会見学報告、委員会資料検討、諸会議のあり方
11月	施設長会議報告、委員会資料検討、諸会議のあり方
12月	理事と職員の懇談会、財務モニタリング報告、委員会資料検討
1月	各委員会・PJ 報告、2017 年度事業計画検討、ボランティア受入
2月	財政援助団体等監査について、定数協議、2017 年度事業計画
3月	財政援助団体等監査、社協との懇談会、施設長会議報告、事業計画

4) 委員会活動

(1) 調査研究委員会

①大規模化問題

前年度に引き続き、100名を超えるクラブの大規模化問題を解決するため、保護者と職員・理事にて大規模化問題の解決および適正規模での事業運営の方策に関する報告書を作成した。

②児童館

法人の今後の事業展開の可能性を検討するため、児童館に関する研究を理事と職員を中心に行った。実際の事業展開のために、子どもセンター「まあち」の見学を行い、児童館運営の事業計画や管理方針等に関する資料を作成した。

(2) 広報委員会

広報紙「くれよん」を各クラブ保護者と職員で隔月を基本に作成した。毎号1,200部発行し、保護者および法人の会員、小学校、関係諸機関、近隣施設等に配布した。

(3) 人事委員会

人事委員会は①人財育成②正規職員の採用および配置を活動の中心とし、6～7月にかけて、正規職員の新規採用者および異動した職員へのフォローアップ面接を行った。また、組織として職員の人事に関する情報を把握することに努めた。11月～12月にかけて職員の昇級試験を実施した。

	内 容
4月	各クラブ状況報告、職員のフォローアップ面接
5月	2017年度正規職員採用計画、フォローアップ面接
6月	正規職員公募について、フォローアップ面接報告
7月	正規職員公募について、フォローアップ面接報告
9月	第1回正規職員選考、昇級試験について
10月	第2回正規職員公募について、昇級試験
11月	第2回正規職員選考、昇級試験
12月	第2回正規職員選考、昇級試験、異動希望調書の確認
1月	昇級試験結果報告、2017年度職員配置検討
2月	2017年度職員配置決定、第3回正規職員選考

(4) 運営委員会

法人組織内の会議のあり方の見直し検討の一環として、2016年度は運営委員会を開催しなかった。

(5) 苦情解決委員会

苦情解決制度に基づき、第三者委員を含め苦情解決委員会を5月、11月に開催した。各クラブに寄せられた苦情報告を第三者委員へ報告し、検証を行った。

5) 施設責任者会議

毎月開催し、職員研修、施設・組織運営に関する諸課題について検討を行った。また、

必要に応じて臨時責任者会議を開催し、保育の専門性の向上や、法人がめざす職員像について、検討を行った。8月と12月に理事との懇談会を企画し、各委員会・プロジェクト（PJ）報告や、「法人がめざす職員像」について意見交換を行った。

	内 容
4月	3月評議員会・理事会報告、おやつ代監査について
5月	ソフトボール大会、特別保育の取扱い、定期総会の役割分担
6月	保護者会の会則について、定期点検報告、夏休みのしおりについて
7月	定期点検報告、苦情報告書の書き方、理事との懇談会、月案検討
9月	利用者アンケート集計結果、理事との懇談会、ソフトボール大会反省
10月	委員会・PJ 報告、理事との懇談会、定期点検、育成記録の書き方
11月	入会申請書受取について、苦情解決委員会報告、委員会・PJ 報告
12月	卒会プレゼント内容、育成記録の書き方、2017 年度委員会・PJ の活動
1月	児童図書年間購読について、事業報告・事業計画作成、会議のあり方
2月	2017 年度職員配置、くれよんキッズマニュアル検討、正規全体会内容
3月	定期点検、2017 年度委員会・PJ の活動、くれよんキッズ春企画

6) 職員会

(1) 正規職員全体会

職員教育および情報共有を目的に、施設責任者が運営を担当した。

	テーマ
4月	2016 年度委員会・PJ の活動について
10月	年間保育計画について、委員会・PJ 報告、育成記録の書き方について
2月	2017 年度職員配置について、委員会・PJ の総括・計画、第3期中期計画

(2) ブロック会議

毎月、マネージャーを中心にブロック会議を開催し、施設運営（事故対応、苦情解決、施設の管理等）に関する情報共有および業務改善への指導を行った。情報を共有することで、正規職員の職員教育および業務標準化を図った。

(3) プロジェクト活動

①ふちくれよんひろば

乳幼児と保護者を対象とした「ふちくれよんひろば」の企画、教材の整備、季刊紙「ふちくれだより」の発行を行った。11～12月に利用者アンケートを実施した。また、2017 年度にむけて企画・日程内容を検討した。

②くれよんキッズ

高学年の居場所事業「くれよんキッズ」実施のため、夏休みおよび2017 年度の春休みの企画を検討した。特に夏休みは高学年にふさわしい活動内容とするため、地区によっては子どもの意見を尊重した企画を実施した。

実施後は報告書を作成し、子ども・保護者の感想を掲載し、配布した。

③専門性

前年度に引き続き、子どもの生活実態にあった生活プログラムの再構築を図ることを目標に、保育計画書および月案を見直した。保育計画書は、国が出した「運営指針」および当法人の保育理念との整合性を図るため、責任者会議等にて様式の提案を行ったが、2017年度からの実際の運用にはいたらなかった。月案は子どもの状況をふまえた内容となるよう見直しを行い2016年度から運用した。

④子どもの居場所

地域の子ども達を対象に「子どもの居場所」事業を展開することを目標に、2016年度は冒険遊び場の調査を行い、9月に正規職員にむけた「せりがや冒険遊び場」の見学会および研修会を企画し、冒険遊び場の意義や運営状況等について共有を図った。また、市内に新設された常設の冒険遊び場の見学会を実施し、新設ならではの運営の課題を学習した。事業展開にむけて事業計画の作成、財政確保の方策等も調査したが、実施には様々な課題があることがわかった。

⑤財政問題

本部会計の財政を安定させるため、様々な調査を行った。当初はインターネットによる成功報酬型広告であるアフィリエイトを調査したが、実際は、YouTubeの動画掲載による収益活動の方が財政活動に適していることがわかった。そのため、12月に親子で伝承遊びを楽しむことや職員相互の技の伝承を目的に、法人ホームページに「けん玉」の基本技を掲載した。また、ぷちくれよんひろば事業やくれよんキッズ事業にむいた助成金があることがわかったが、申請にはいたらなかったので、次年度の課題とする。

また、現在の個人会費を見直し、2017年度の総会に提案することを目標に検討を進めた。また、くれよんキッズ事業と同様な事業展開を行っているNPO法人ちがさき学童保育の会のサマースクールを8月に見学した。

2. 人財育成

1) 全国学童保育連絡協議会主催

日程	名称	場所	参加者
6月	全国学童保育指導員学校	明星大学	25名
10月	全国学童保育研究集会	愛知県体育館・金城学院大学	13名

2) 児童青少年課主催 研修会

日程	テーマ	場所	参加者
7月12日	障がい児の特性について	市役所	3名
9月15日	学童保育クラブ指導員のチームワーク作り	市役所	14名
10月14日	①複数の支援の単位における保育について	市役所	3名
交流研修会	②障がい児事例検討		2名

交流研修会	③入会準備 ④おやつ(アレルギー等)		2名 3名
10月18日 交流研修会	⑤合同行事 ⑥保育環境 ⑦自由遊び ⑧防災に関して	市役所	3名 2名 4名 3名
10月20日 交流研修会	⑨異性配慮 ⑩特別保育 ⑪行事の工夫	市役所	5名 2名 4名
10月26日	発達障がいと愛着障がいの理解と支援	市役所	12名
11月24日	けん玉を知って子どもたちに広げよう	市役所	15名

3) 職場内研修

(1) 初任者・常勤職員(有期雇用)研修

日程	テーマ	場所	参加者
5月25日	法人の歴史・組織運営について	そよかぜ	10名
5月27日	子どもの捉え方と生活づくり	そよかぜ	16名
7月8日	学童保育とは・リスクマネジメント	そよかぜ	16名
11月17日	個人情報保護	そよかぜ	18名
11月25日	放課後児童クラブ運営指針	なかよし	12名
1月19日	保育理念	そよかぜ	17名

(2) 中堅者研修

日程	テーマ	場所	参加者
5月27日	苦情解決	大蔵	5名
7月8日	子育て支援	なかよし	4名
11月15・25日	人事考課	なかよし	7名
3月6日	児童虐待防止	なかよし	4名
通年	実践検討	なかよし	6名

(3) 管理者研修

日程	テーマ	場所	参加者
9月30日	人事考課	なかよし	11名
10月28日	労務管理	けやき	11名

(4) 非常勤職員研修

日程	内容	場所	参加者
6・10月	普通救命救急講習	各地区	42名
12月9日	学童期の児童の発達	ことばらんど	34名
2月17日	小児食物アレルギーの基礎知識と誤飲防止対策	ことばらんど	51名

(5) 交換研修 (クラブ間研修)

11～1月に5日間、保育実践交流を中心に交換研修を実施した。

所 属	氏 名	研修先
大蔵	藤平	金井
金井	赤澤	大蔵
高ヶ坂けやき	池田	どろん子
そよかぜ	五十嵐	鶴川
鶴川	師岡	そよかぜ
わんぱく	小野	事務局

(6) その他

日 程	テーマ	場 所	参加者
9月14日	冒険遊び場から広げる地域づくり	芹が谷陽だまり荘	35名

4) 資格取得 (正規)

種 別	氏 名
放課後児童支援員	岡、藤平、八木、鈴木、赤澤、黒木、阪下、栗林、本山(健)、中谷五十嵐、小布施、師岡、二川、熊谷、高橋(麻)、大森、小倉
普通救命救急	五十嵐、吉村、二川、工藤、青木、高橋(麻)、小野(貴)
防火管理者(甲種)	藤平、赤澤、五十嵐、二川、高橋(麻)、小布施
衛生推進者	三階、永松、阪下

5) 運営者協議会主催合同研修会

日 程	内 容	参加者	場 所
2月3日	①子どもたちを引付ける保育 ②子どもの変化に気付く保育 ③子どものけんかにどう向き合うか	15名	本町田クラブ
2月3日	職員・保護者とのコミュニケーション	10名	金井クラブ
2月20日	リーダーの果たすべき役割	13名	ころころ児童館

6) 東京都社会福祉協議会主催の研修

時 期	研修名	参加者
6月14・15日	キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	藤平、赤澤
7月5・6日	キャリアパス対応生涯研修課程 中堅者研修	渡邊、高橋(蘭)
10月～11月	福祉施設経営基礎研修 経営初級課程	石田
10月17日	スーパービジョン研修	小野寺

7) 事務局研修

時 期	研修名	参加者
10月5日	労災保険・雇用保険	石川
10月20日	改正法・雇用均等セミナー	井上(泉)
10月25日	労働基準法等に関する基礎研修会	石川
2月9日	60歳からの雇用保険、社会保険の手続き	石川

8) その他

時 期	研修名	主 催	参加者
7月1日	子育て支援に求められる機関としての役割	子育て推進課	三階、木下、八木、横山、小野寺、小野(さ)
7月22日	児童虐待防止	子育て支援課 ネットワーク連絡会	永松

7月25日	地域支援セミナー	子ども子育て支援センター	渡邊
7月30日	血友病の子どもたちを担当される先生方のための勉強会	荻窪病院 血液科外来	池田
9月9日	今だから子どもたちに体験させたいこと	まちだ冒険遊び場をつなぐ会	石田、中谷
9月13日	相談援助の基本	南地区子育て支援連絡会	石田
9月29日	相談援助の基礎	鶴川地域子育て相談センター	小野寺
9月30日	子育て支援機関の連携のあり方を考える	子育て推進課	三階、木下、石田、小野寺、横山、永松、小野(さ)
10月14日 12月9日 1月21日	ぜん息・食物アレルギー緊急時対応研修	東京都福祉保険財団	高橋(麻)、赤澤、熊谷、小野(貴)、小布施、工藤、小野寺、二川、五十嵐、青木
11月21日	児童虐待が及ぼす子どもの今後の人生への影響について	町田市子育て支援ネットワーク連絡会	三階、駒井
1月31日	地域で子育てををするとは？	NPO 法人 子ども広場 あそべこどもたち	栗林、小布施、佐々木
2月14日	活動を継続させる組織づくり	NPO 法人 子ども広場 あそべこどもたち	井上(泉) 本山(健)

3. 啓発活動

1) ニュース発行

(1) 広報紙「くれよん」の発行

法人の広報紙「くれよん」を隔月で1,200部発行した。内容は、主に法人の活動を紹介することに重点をおき、くれよんキッズの活動や委員会・プロジェクトの活動紹介、定期総会の様子等を掲載した。また、特集としてソフトボール大会、「卒会」にむけた保護者の声、熊本地震で被災した学童保育への支援金等について掲載した。

(2) 「ぷちくれよんだより」の発行

「ぷちくれよんひろば」を利用する保護者にむけて、毎回の企画の紹介や、子育てに役に立つ情報を中心に「ぷちくれよんだより」を4回発行した。特集として、予防接種の情報、食育のための簡単クッキング、「マイコプラズマ肺炎」「子どもの歯磨き・肌・ダニ」や、利用者アンケート結果を掲載した。

2) ホームページの充実

法人ホームページは事務局にて、適宜更新・管理を行った。「くれよんキッズ」の活動を写真で紹介するページを充実させ、「くれよんキッズ」の利用を検討する家庭へむけて情報発信を行った。「ぷちくれよんひろば」専用のホームページを活用し、インフルエン

ザ流行時にはリアルタイムで中止・実施状況を掲載した。

3) 「日本の学童ほいく」誌の普及

「日本の学童ほいく」誌は日本で唯一の学童保育に関する専門雑誌である。2016年度は73部（職員66、保護者3、団体4）の購読申込みがあったが、前年度比で12部減となった。「日本の学童ほいく」誌は、全国の学童保育の大規模問題や高学年保育等の様々な情報が掲載されていたり、保護者にむけた記事も多く掲載されていることから、職員より積極的に懇談会で保護者にむけて子育ての関連記事を紹介したり、保護者会活動の支援のために情報提供を行っていく。

4. 子育て支援事業

1) ぷちくれよんひろば（乳幼児の子育て支援事業）

クラブ名	登録世帯数		年間延べ利用数		平均利用人数	
	2015年度	2016年度	幼児	保護者	企画日	開放日
金井	13	3	9	8	0.6	1.3
函師	9	2	4	4	0.6	0.2
そよかぜ	28	23	135	108	13	12.5
どろん子	15	5	9	6	1.2	0.6
南大谷	14	11	77	75	9.2	7.6
計	79	44	234	201		

地域の乳幼児とその保護者の「孤立した子育て」をなくし、子育て支援ネットワークづくりに貢献することを目的に、「ぷちくれよんひろば」事業を5カ所で実施した。例年に比べ、そよかぜ、南大谷クラブ以外の地域では利用が減少傾向にあり、保育園や幼稚園等における子育てひろばが広がり、選択肢が増えたことや、市の推進している「マイ保育園」登録が進んでいることが要因として考えられる。

11～12月に実施した利用者アンケート（回答数18世帯）では、「ぷちくれよんひろばをどこで知ったか」の質問に対し、「友達に誘われて」が最も多く、次いで「法人が作成したチラシを見た」「クラブの前に設置しているのぼりを見た」等であった。また、利用目的として①子ども同士の交流②親同士の交流をあげた家庭が多かった。

クラブ名	利用率
金井	0.0%
函師	0.0%
そよかぜ	33.3%
どろん子	0.0%
南大谷	5.2%
平均	7.7%

自宅から会場までの距離として、5～10分以内の方の利用が16世帯あり、近隣の方が多く利用している。また、「他に利用している子育てひろば」では11名の方が近隣保育園や幼稚園等を利用していることがわかった。

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	計
おもちゃ	63%	27%	5%	5%	0%	100%
企画内容	78%	17%	0%	0%	5%	100%
スタッフ	100%	0%	0%	0%	0%	100%
室内環境	63%	37%	0%	0%	0%	100%

2016年度は桜美林大学より学生ボランティアの受入があったが、利用者が少ない地域であったため、学生ボランティアの要望である乳幼児とのふれあいの機会がなかった。今後も近隣の子育て支援センターや大学との連携のもと、遊具や企画内容の見直し、広

報活動等に重点をおき、事業の充実を図っていく。

2) 子どもの居場所事業（くれよんキッズ）

学童保育を卒会した4年～6年生を対象に、春休み・夏休みに「くれよんキッズ」を7地区で実施した。春休みには、中学1年生も対象としたところ、1名の参加があった。

夏休みには、地区によっては子ども達が主体的に「コマ送り動画撮影」を行ったり、「おまつり」や「お化け屋敷」を企画し、地域の子どもや学童保育クラブの子ども達を招待する等、高学年が活躍することを意識した活動が行われた。今後も「高学年活動」のあり方を検証し、発展させていく。

春・夏ともに報告集を作成し、保護者および学校等に配布した。また、「くれよんキッズ」の活動の様子は、ホームページに掲載した。

(1) 春休み企画

南地区	4年	5年	6年	中1	計
つくし野	5	2	2	0	9
わんぱく	5	0	0	0	5
計	10	2	2	0	14

忠生・図師地区	4年	5年	6年	中1	計
図師	11	2	0	1	14
なかよし	7	4	2	0	13
計	18	6	2	1	27

成瀬地区	4年	5年	6年	中1	計
そよかぜ	4	0	1	0	5
あおぞら	4	1	2	0	7
計	8	1	3	0	12

鶴川地区	4年	5年	6年	中1	計
鶴川	4	5	1	0	10
大蔵	7	1	0	0	8
金井	8	3	2	0	13
計	19	9	3	0	31

高ヶ坂地区	4年	5年	6年	中1	計
どろん子	4	1	0	0	5
けやき	1	2	2	0	5
南大谷	7	2	5	0	14
計	12	5	7	0	24

	4年	5年	6年	中1	計
総計	67	23	17	1	108

(2) 夏休み企画

高ヶ坂地区	4年	5年	6年	計
南大谷	7	3	2	12
けやき	2	4	2	8
計	9	7	4	20

南地区	4年	5年	6年	計
つくし野	5	6	2	13
わんぱく	3	1	2	6
どろん子	2	1	1	4
計	10	8	5	23

忠生・図師地区	4年	5年	6年	計
図師	10	7	1	18
なかよし	2	2	0	4
計	12	9	1	22

鶴川地区	4年	5年	6年	計
鶴川	4	4	1	9
大蔵	8	5	0	13
計	12	9	1	22

成瀬地区	4年	5年	6年	計
そよかぜ	3	0	1	4
あおぞら	4	2	2	8
計	7	2	3	12

相原地区	4年	5年	6年	計
のびっ子	3	2	2	7

金井地区	4年	5年	6年	計
金井	8	4	0	12

	4年	5年	6年	計
総計	61	41	16	118

夏休み 地区別 利用状況

	相原	鶴川	金井	忠生	南	高ヶ坂	成瀬
申込(登録)	7	22	12	22	23	20	12
のべ 人	8	83	29	58	73	69	29
平均 人	4.0	8.3	5.8	6.4	7.3	6.9	3.6
開催日数	2	10	5	9	10	10	8
利用率	57%	38%	48%	29%	32%	35%	30%

5. 保護者会活動への支援

1) 各保護者会と法人との懇談会

各クラブ保護者会相互の交流を図るとともに、法人との情報交換および連携を深めるため懇談会を定期的に開催した。行事の進め方や保護者会費の使い方、役員を選出方法等、各クラブで工夫していることや悩み等を交流した。

	内 容
5月	定期総会、保護者間の連絡方法、キャンプのプログラムについて
7月	利用者アンケート、くれよんキッズ夏企画について、ソフトボール大会
11月	保護者会費、実行委員会と役員会の連携のあり方、次年度の役員
1月	保護者会ハンドブックの活用について、今後の評議員会のあり方
3月	大規模問題について、新しいまちとも内容、1年間の振り返り

2) 保護者会交流行事

9月実施のソフトボール大会は、実行委員会が中心となり大会運営を行った。全13クラブが参加し(約515名)、交流を深めた。参加人数も年々増加傾向にあるため、引き続き安全対策を実行委員会と共に見直し、強化していく。

6. 関係団体・機関との連携

1) 行政との連携

- (1) 事務局が窓口となり、児童青少年課と日常的な情報交換を行う。6月に懇談会を申し入れ、大規模問題の解決やどろん子クラブの反響音の問題等に関する協議を行った。また、児童青少年課主催の施設長会議に出席した。
- (2) 地域子育て支援ネットワーク連絡会に施設責任者が参加し、学校や保育園、民生児童委員等と、児童虐待防止および子育て支援に関する情報交換を行った。児童に関する具体的な支援に関して、子ども家庭支援センターおよび児童相談所と連携した。
- (3) 「特別支援学校連絡協議会」に参加し、特別な支援を必要とする児童の保育に関し、連携を図った。

2) 学童保育に関する団体との連携

- (1) 学童保育に関する課題が生じた際、「町田市学童保育クラブ父母会連絡協議会」(父母連協)との連携を図っているが、2016年度は父母連協が実施した請願署名に協力を行った。
- (2) 6月に行われる「町田市学童保育を考える会」の総会、および9月開催の町田学童まつりへ参加した。

3) 他の学童保育事業を行う法人との連携

- (1) 町田市学童保育運営者協議会(運営者協議会:7団体・22クラブ)

市内で学童保育を運営する他の法人と定期的に情報交換を行った。特に10月以降は、運営者協議会主催の合同研修会の実施にむけて準備を行った。初任者・中堅者・管理者

むけの階層別研修としたことで、その階層として必要とされる業務のスキルアップや、問題意識を共有化することができた。運営者協議会に加入していない団体へも呼びかけたところ、7団体30クラブ(78名)から参加があった。階層ごとに交流ができたことで、参加者からの感想は好評であった。

(2) 町田市社会福祉協議会(社協)

例年、社協が主催する児童の絵画展の選考委員を依頼され、事務局が協力を行った。また、2月に学童保育事業担当者との懇談会を開催し、情報交換を行った。特に、職員の人材確保や給与体系、役職者や事務局としての業務内容等、組織運営に関する様々な情報を共有した。今後も定期的に交流を行っていく。

7. 学童保育の充実にむけた運動の支援

町田の学童保育を充実させるために、大規模化する学童保育クラブの適正規模への「分割・増設」をめざす課題、4年生以上の保育受入れ等、諸課題に対し運動の支援を行うことを方針としているが、2016年度は具体的な活動を行っていない。

8. 会員拡大

法人の趣旨・理念に賛同する会員を増やすため、会員拡大に取り組んだ。これまで会員であった方に(法人役員OB・保護者OB等)、事務局より継続して会員になっていただく呼びかけを行ったところ、5名の方から継続の意思が伝えられた。一方で、前年度と比較し賛助会員が減少しているため、引き続き会員拡大の強化を図っていく。

(2016年4月1日～2017年3月31日)

区分		2015年度	2016年度
正会員	団体会員	12	13
	個人会員	78	81
賛助会員	個人会員	111	81
計		201	175

9. 事業拡大

当法人は、「子どもは地域の中で見守られながら育つ」を理念の一つとしている。学童保育事業を中心としながらも、地域の中で子育て支援のネットワークづくりに貢献していく考えを大切にしている。

2016年度は第3期中期計画の2年目であり、①子どもの生活環境の変化をふまえ、年間保育計画書の見直し、②大規模化問題の解消にむけた報告書作成、③保育参加の実施、④財政問題、⑤さらなる事業展開の可能性の検討(児童館・冒険遊び場等)、⑥諸会議のあり方を見直し等、に取り組んだ。いずれも、中計計画の最終年度である2017年度に向けて、課題を整理し取り組んでいく。

10. その他

1) 震災 支援金活動

東日本大震災および熊本地震で被害にあった学童保育を支援するため、各保護者会の協力のもと、支援金活動を行った。全国学童保育連絡協議会へ約 50 万円を送金した。

2) 「まちカフェ！」への参加

12 月に行われた第 10 回市民協働フェスティバルに法人として初参加した。実行委員会に参加することで、市内の様々なボランティア団体との情報交換を行うことができた。特に法政大学や、市民活動のコーディネーター、ボランティアセンターと交流ができたことで、他法人・他団体との連携を広げる可能性が出てきた。

当日は理事の有志による子どもの遊びコーナーを企画し、多くの子ども達とふれあうことができた。2017 年度はボランティアの受入れ拡大を含め、さらなる地域とのネットワークづくりのために、連携を図っていく。

II. 学童保育事業

1. 事業展開 (各クラブ事業報告書：別紙参照)

11 月に、町田市の財務モニタリングが行われた。2015 年度の会計・経理状況について事務局が説明し、帳票類を提出したところ、問題点等の指摘事項は特になかった。また、町田市の定める職員の配置基準に基づき、適正な配置を守るよう努めた。

2 月に町田市の財政援助団体等監査が行われ、2015 年度の大蔵学童保育クラブが対象となった。事務局とクラブ職員が対応し、経理および施設の管理運営における業務執行状況について、監査が行われた。

第 3 期中期計画に基づき、全クラブにて「保育参加」を実施した。保護者が保育を体験できる「参加型」としたことにより、学童保育クラブへの理解を深めるとともに、「我が子と我が子達」の生活を知る機会となった。参加した方の感想は概ね好評であった。

今後も保育参加を通し、「子どもを見守る大人」と子ども達がつながりを深めることを目的として実施する。

2. 苦情解決

当法人の苦情解決制度は原則として利用者を対象としているが、近隣地域からの苦情にも対応を行っている。

苦情内容	2015年度	2016年度
職員の対応に関する不満	29	35
近隣からの苦情	6	3
その他	0	0
計	35	38

苦情内容は、5 月・11 月に開催した苦情解決委員会にて第三者委員に報告、および町田市に報告書を提出した。

なお、寄せられたご意見・要望の総数に対する苦情の割合は、上記の通りであった。

	上半期	下半期	合計
意見等	165	104	269
苦情の割合	15.8%	11.5%	14.1%

3. 事故防止

1) 事故件数 (医療機関にかかった場合)

	児童				職員	児童のケガ	
	傷 害		賠 償			保育中	登下校中
	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度			
大蔵	9	13	0	0	0	6	7
大戸のびっ子	3	2	0	0	0	2	0
金井	3	6	0	0	0	6	0
高ヶ坂けやき	1	3	0	0	0	3	0
図師	1	5	0	1	0	5	0
そよかぜ	3	5	0	0	0	5	0
つくし野	2	3	0	0	0	2	1
鶴川	4	3	0	0	1	3	0
どろん子	2	3	0	0	2	3	0
なかよし	7	7	0	0	0	7	0
成瀬中央あおぞら	1	0	0	0	0	0	0
南大谷	1	4	0	0	0	4	0
わんぱく	0	7	0	0	0	6	1
計	37	61	0	1	3	52	9

2016年度は、例年になく事故件数の増加傾向が見られた。保育中のケガの半数は切り傷・擦り傷、捻挫・打撲といった内容が多いが、骨折が7件あった。

1件の大事故は、小さな危険・障害物（ハザード）の見落としから発生する（インリッヒの法則）ものであり、今後さらに安全対策を強化していく。

2) おやつ提供時の管理

(1) 食物アレルギー対策

食物アレルギー対策のマニュアルおよびチェックリストに基づき、全クラブにて毎日のおやつ提供時にアレルギー対策を行った。日々の作業や対応における「ヒヤリ・ハット事例」については、毎月のブロック会議にて報告し、全クラブにて共有化を行った。また、初任者・中堅者を中心に食物アレルギーに関する講習会に参加し、非常勤研修でもアレルギー対策を行う等、知識および対応方法等を習得した。

(2) 食品の賞味期限の管理

2016年度に2クラブにおいて食品の賞味期限切れの提供があり、児童青少年課より児童の健康管理・安全管理を徹底するようとの指摘を受けた。これを受けて、全クラブにて管理方法の徹底を行った。

4. 利用者アンケートおよび業務改善

1) 利用者アンケート

7月に行った利用者アンケートで、全体的に評価が高いのは、「子ども達の様子への伝達」「季節の取り組み、イベント」「クラブ便り」「発熱やケガなどの処置」「子どもが満足して帰宅している」「生活指導」「子育て相談」であった。子どもが満足してクラブに通っている、ある

全世帯数	回答数	全クラブ平均
973	772	79.7%
	前年度	72.1%

いは職員との信頼関係があると感じている保護者の場合、全体的な評価が高くなる傾向がある。

クラブにより若干の差があるものの評価がやや低かった項目は、「要望・意見・苦情対応」「設備の衛生対策」「施設の安全・防犯対策」に関する内容であった。

「職員の言葉遣いが悪い」や「子どもへの対応・態度が信頼できない」といった指摘も複数のクラブでみられる。「職員の態度・対応」に対する満足感は全体的に高いにも関わらず、毎年同様の指摘があるため、職員教育を徹底していく。

日常のイベントや行事に関する評価は概ね高いため、内容に関しては比較的満足が得られている。一方で保護者会活動および保護者相互の交流に関する項目では、負担を感じるとの声もあるが、「不満」が前年度と比較してやや減少傾向にあった。引き続き各クラブで保護者会と連携し、見直しを図っていく。

分析結果をもとに各クラブで業務改善に取り組み、その結果を保護者へ配布した。回収率に関しては、前年度と比べて向上したが、13クラブで75.0%～86.7%と差があるため、今後とも向上に努める。

2) 業務改善 (詳細は各クラブ事業報告書参照)

利用者アンケートをもとに、各クラブで施設運営・保育サービスの向上を目的とし、業務改善に取り組んだ。

5. その他

1) 巡回指導・定期点検

保育の質向上のため、マネージャーが定期的に全クラブを巡回し、保育見学および職員との面談を行った。必要な場合は把握した内容を人事委員会に報告した。学期に1回、各クラブの定期点検を行い、個人情報適正な管理、衛生管理、文書管理方法、整理整頓、火災事故防止に関する指導を行った。また、おやつ代の監査を年間通して行った。

2) 職員のメンタルヘルス

職員の安全衛生を推進するため、セルフチェックを年2回実施した。また、6月に新規採用の職員にむけた講習を実施した。今後も、140名を超える職員の労働安全衛生を推進するため、法令に基づき整備を図る。

3) 緊急一時保護児童

町田市の「学童保育クラブ緊急入会事務要綱」に基づき、市より依頼があった場合、定員に関わりなく緊急一時保護を受け入れるとしている。2016年度は受入れがなかった。

4) 通所支援事業

都立町田の丘学園に通う児童のうち、通所支援事業(学校のバス停から学童保育クラブまでの職員によるお迎え)の利用者は、4クラブ4名であった。

Ⅲ. 児童数と職員体制

1. 児童数および職員配置 (4月1日時点)

クラブ名	支援の 単位数	職員			児童数			
		正規	常勤(有 期雇用)	非常勤	4月1日	増	減	3月31日
大蔵	3	3	2	3	128	6	8	126
大戸のびっ子	1	3		0	38	3	11	30
金井	2	3		4	80	9	18	71
高ヶ坂けやき	2	2	1	2	66	9	4	71
函師	3	2	3	3	110	4	14	100
そよかぜ	2	3		1	54	6	8	52
つくし野	2	3		1	58	5	7	56
鶴川	2	3	1	2	84	3	16	71
どろん子	3	3	2	8	107	11	21	97
なかよし	3	3	2	7	115	6	16	105
成瀬中央あおぞら	1	2	1	0	36	10	7	39
南大谷	3	4	1	5	104	8	18	94
わんぱく	2	3		2	60	2	3	59
事務局		4						
計	29	41	13	38	1,040	82	151	971

2. 人事

1) 採用

	雇用形態	所属	人数
4月1日	正規職員	大蔵	1名
		そよかぜ	1名
		つくし野	1名
		鶴川	1名
		どろん子	1名
		なかよし	1名
		あおぞら	1名
		南大谷	1名
	常勤職員(有期)	大蔵	1名
		函師	1名

	雇用形態	所属	人数
4月1日	常勤職員(有期)	なかよし	1名
	非常勤職員	つくし野	3名
		南大谷	2名
4月11日	常勤職員(有期)	南大谷	1名
5月1日	非常勤職員	鶴川	1名
9月1日	非常勤職員	大蔵	1名
10月1日	正規職員	どろん子	1名
		わんぱく	1名
10月11日	非常勤職員	函師	1名
2月21日	非常勤職員	大蔵	1名

他、夏季アルバイト61名

2) 退職

	雇用形態	所属	人数
5月31日	非常勤職員	大蔵	1名
		つくし野	1名
6月30日	非常勤職員	大蔵	1名
7月15日	非常勤職員	けやき	1名
7月30日	非常勤職員	南大谷	1名
8月31日	非常勤職員	なかよし	1名
9月29日	非常勤職員	函師	1名
11月15日	非常勤職員	なかよし	1名
12月31日	正規職員	のびっ子	1名

	雇用形態	所属	人数
1月15日	非常勤職員	金井	1名
3月3日	非常勤職員	大蔵	1名
3月31日	正規職員	鶴川	1名
		なかよし	1名
		わんぱく	1名
	非常勤職員	金井	1名
		函師	1名
		どろん子	2名
		わんぱく	1名

3) 異動

	雇用形態	所属・役職	異動内容
4月1日	正規職員	大蔵責任者	図師より
		のびっ子責任者	鶴川より
		図師責任者	責任者へ昇任
		南大谷責任者	わんぱくより
		わんぱく責任者	つくし野より
		のびっ子	金井より
		金井	南大谷より
		けやき	なかよしより
		鶴川	のびっ子より
		なかよし	図師より
		南大谷	そよかぜより
	常勤職員(有期)	けやき	非常勤より常勤に異動
		図師	嘱託より常勤に異動
		鶴川	非常勤より常勤に異動
		どろん子	嘱託より常勤に異動
		なかよし	嘱託より常勤に異動
		あおぞら	再雇用職員に異動
	非常勤職員	けやき	つくし野より
		つくし野	南大谷より
		鶴川	なかよしより
		鶴川	金井より
6月1日	非常勤職員	なかよし	大蔵より
2月1日	常勤職員(有期)	図師	非常勤より常勤に異動